

## ➤ 計画の役割

- 宮城県環境基本計画は、環境基本条例（平成7年宮城県条例第16号）に基づき、良好な環境の保全と創造に関する総合的かつ長期的な目標及び施策の大綱を定めるもの。
- 「新・宮城の将来ビジョン」における環境分野の個別計画として位置づけられている。

## ➤ 計画の将来像

### 豊かで美しい自然とともに、健やかで快適な暮らしが次世代へ受け継がれる県土

- 私たちの生活は自然環境を礎とした生態系の中で成り立っており、地球温暖化などの気候変動をはじめとする環境課題に取り組むことが重要です。
- 自然災害への耐性や回復力を備えた、強くしなやかな社会を形成するとともに、豊かで美しい自然と共生した、将来にわたり安心して快適に暮らせる県土を目指します。

### 持続可能な社会の実現に向けてすべての主体が行動する地域社会

- 日常生活や事業活動によって生じる環境への負荷を抑制しながら地域の活力を維持することが、持続可能な社会の実現のために不可欠です
- 2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロとする目標を掲げ、県民、事業者、民間団体及び行政など地域社会を構成する全ての主体が、省エネルギー、省資源、自然環境への配慮などに「自分ごと」として取り組むとともに、年齢、性別等にかかわらず、多様な人材の育成と参画の推進を図りながら、一人一人が着実に行動する地域社会の形成を目指します。

## ➤ 計画期間

令和3～12年度（10年間）

# 環境基本計画に連なる個別計画

政 策	個別計画	目 的
1 脱炭素社会の構築	①宮城県地球温暖化対策実行計画（区域施策編） → <b>みやぎゼロカーボン チャレンジ2050戦略</b>	➤ 脱炭素社会の実現に向けて、県域全体からの温室効果ガスの排出量抑制及び気候変動適応を推進
	②再生可能エネルギー・省エネルギー計画	➤ 脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギー等の導入及び省エネルギーを促進
2 循環型社会の形成	③宮城県循環型社会形成推進計画	➤ 循環型社会の実現に向けて、廃棄物等の3Rと適正処理を推進
3 自然共生社会の形成	④宮城県自然環境保全基本方針	➤ 人と自然の共生を目指し、長期的展望に立った自然環境保全施策を推進
	⑤宮城県生物多様性地域戦略	➤ 県の生物多様性の保全及び持続可能な利用
4 安全で良好な生活環境の確保	⑥宮城県水循環保全基本計画	➤ 健全な水循環を保全
	⑦宮城県自動車交通環境負荷低減計画	➤ 自動車交通に関する環境負荷を低減

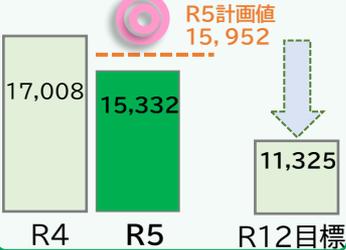
# 宮城県環境基本計画（第4期）の進捗状況

17の管理指標（令和6年度実績）

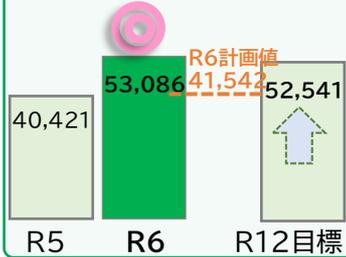


## 政策1 脱炭素社会の構築

(1) 県内の温室効果ガス排出量(千t-CO<sub>2</sub>) ※

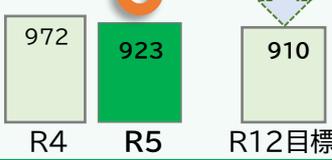


(2) 再生可能エネルギー導入量(TJ) ※

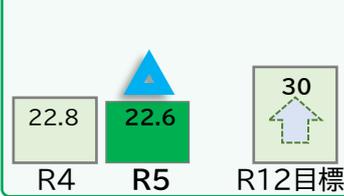


## 政策2 循環型社会の形成

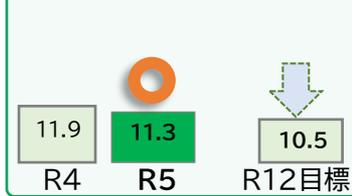
(3) 県民1人1日当たりの一般廃棄物排出量(g/人・日)



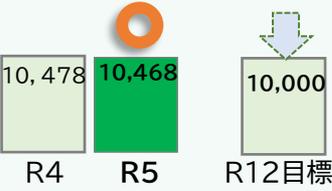
(4) 一般廃棄物リサイクル率(%)



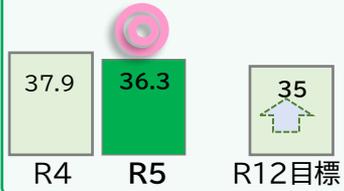
(5) 一般廃棄物最終処分率(%)



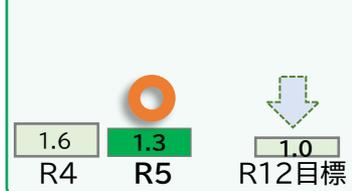
(6) 産業廃棄物排出量(千t)



(7) 産業廃棄物リサイクル率(%)



(8) 産業廃棄物最終処分率(%)



## 政策3 自然共生社会の形成

(9) 豊かな生態系(森林・農地・水辺環境の保全)

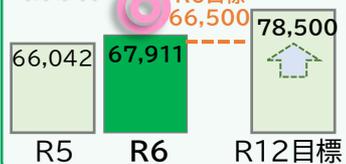


管理指標(9)(15)(16)(17)は、関連する複数の指標を基に10点満点で評価するもの

(10) 森林整備面積(ha/年)

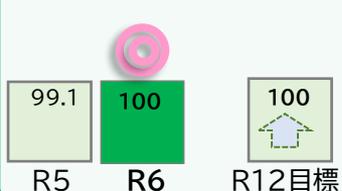


(11) 農村環境保全等の協働活動に参加した人数(累計)



## 政策4 安全で良好な生活環境の確保

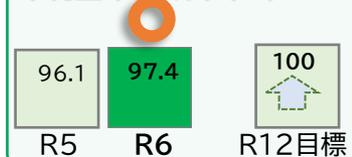
(12) 大気汚染に係る環境基準達成率(%)



(13) 大気中揮発性有機化合物の環境基準達成率(%)



(14) 道路に面する地域における自動車交通騒音の環境基準達成率(%)



(15) 清らかな流れ(水質環境基準の達成度)



(16) 豊かな流れ(河川流量の豊かさ)

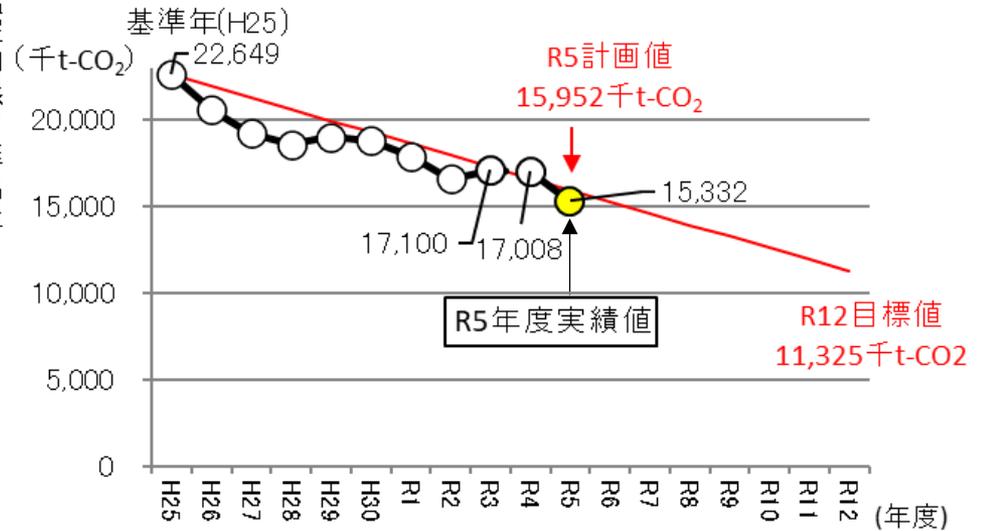


(17) 安全な流れ(河川・海岸整備率の向上)



管理指標 1	
県内の温室効果ガス排出量（千t-CO <sub>2</sub> ）	
指標の概要	
県内で1年間に排出される温室効果ガスの総量（森林による吸収量を差し引いたもの）	
実績	
最新実績	令和5年度 15,332千t-CO <sub>2</sub> 【計画値(令和5年度)15,952千t-CO <sub>2</sub> 】
前年実績	令和4年度 17,008千t-CO <sub>2</sub>
達成状況	◎ 当該年度計画値に到達 前年度比 -9.8%

（森林等による吸収量を差し引いたもの。）



評価と方向性について

- 令和5年3月に策定した「みやぎゼロカーボンチャレンジ2050戦略」において、令和12年度の二酸化炭素排出量を平成25年度比50%とする目標を設定している。
- 排出量は、平成25年度から減少傾向で推移しているところ、令和5年度の排出量については、計画値15,952千トン-CO<sub>2</sub>に対して15,332千トン-CO<sub>2</sub>、前年度比-9.8%であり、基準年度比-32.3%の排出量削減が達成された。
- 令和5年度の排出量は、産業部門、家庭部門のエネルギー消費量の減少と、電力排出係数の下落が要因となり、排出量が前年度よりも大きく減少した。令和5年度の計画値は15,952千トン-CO<sub>2</sub>であり、計画値を達成している。
- 目標達成に向けては、「みやぎゼロカーボンチャレンジ2050戦略」（令和5年3月策定）に基づき、建築物の省エネルギー化や事業所を対象とした大容量の自家消費型再生可能エネルギー導入の促進に注力するほか、「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」の長期目標の実現を見据え、水素、地熱等の活用促進に取り組む。

管理指標 2

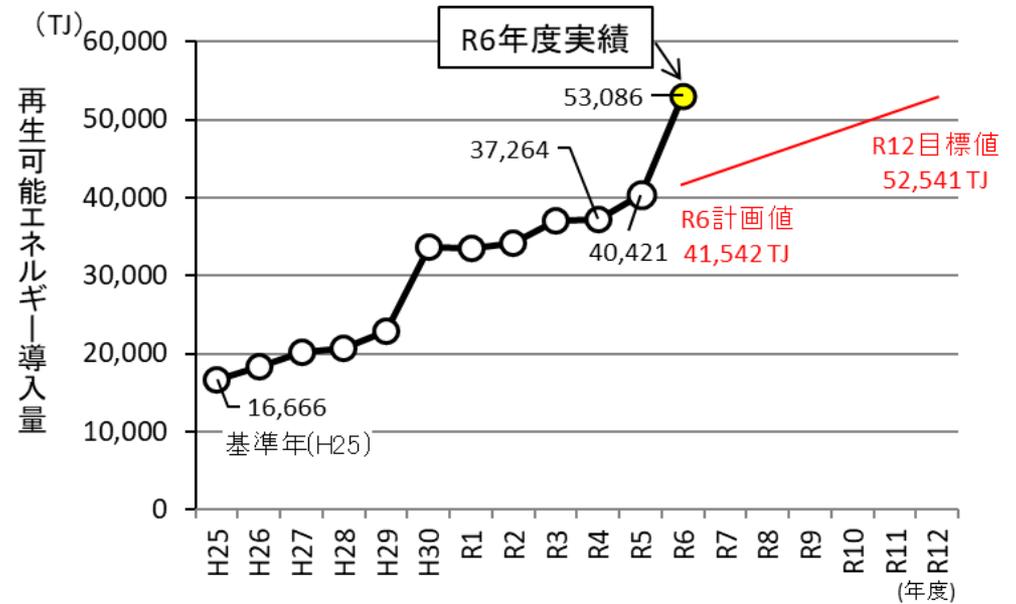
再生可能エネルギー導入量 (TJ)

指標の概要

県内で1年間に導入された再生可能エネルギーの総量（熱量換算。）

実績

最新実績	令和6年度 53,086 TJ 【計画値(令和6年度) 41,542 TJ】
前年実績	令和5年度 40,421 TJ
達成状況	◎ 目標達成 前年度比+31.3%



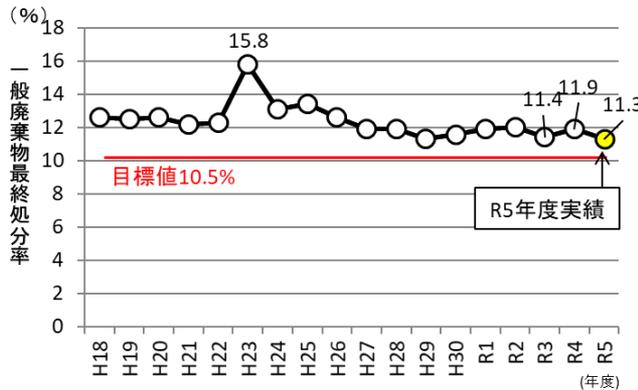
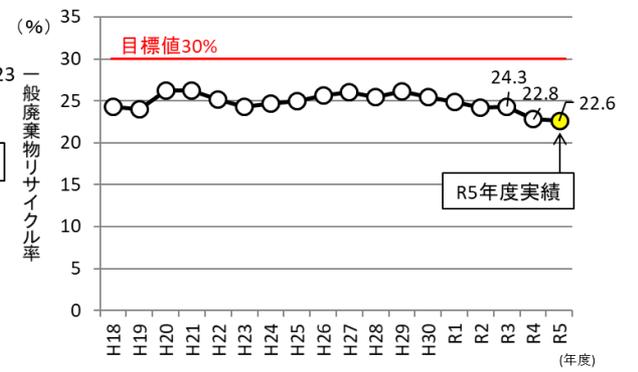
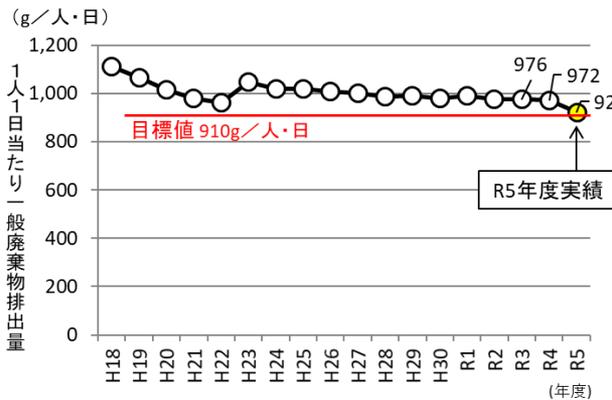
評価と方向性について

- 令和6年度の再生可能エネルギー導入量は53,086 TJで、前年度から31.3%増加した。
- 再生可能エネルギー導入量のうち、電気利用はバイオマス発電（前年度比243.9%）、風力発電（前年度比249.2%）の増加が大きく寄与したため、前年度から38.9%増加した。
- 再生可能エネルギー導入量のうち、熱利用は前年度から14.6%増加し、計画値（令和6年度）を達成している。
- エネルギーの多様化という観点から、エネルギー種別ごとの進捗状況を注視し、必要な施策を検討していく。

管理指標 3	
県民1人1日当たりの一般廃棄物排出量 (g/人・日)	
指標の概要	
県民1人1日当たりの一般廃棄物排出量	
実績	
最新実績	令和5年度 923 g/人・日 【目標値 (令和12年度) 910 g/人・日】
前年実績	令和4年度 972 g/人・日
達成状況	○ 目標未達成だが改善 前年度比-5.0%

管理指標 4	
一般廃棄物リサイクル率 (%)	
指標の概要	
県内の一般廃棄物リサイクル率	
実績	
最新実績	令和5年度 22.6% 【目標値 (令和12年度) 30%】
前年実績	令和4年度 22.8%
達成状況	△ 目標未達成かつ後退 前年度比-0.2ポイント

管理指標 5	
一般廃棄物最終処分率 (%)	
指標の概要	
県内の一般廃棄物最終処分率	
実績	
最新実績	令和5年度 11.3% 【目標値 (令和12年度) 10.5%】
前年実績	令和4年度 11.9%
達成状況	○ 目標未達成だが改善 前年度比-0.6ポイント



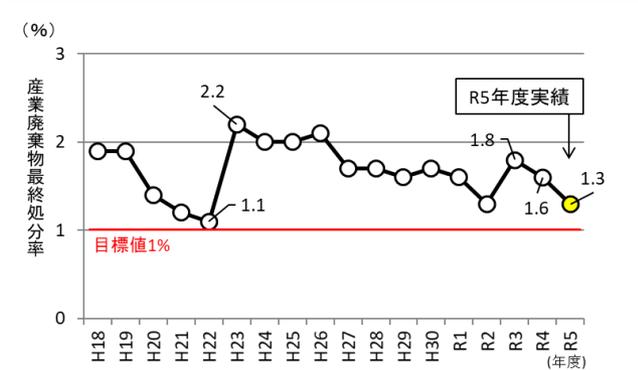
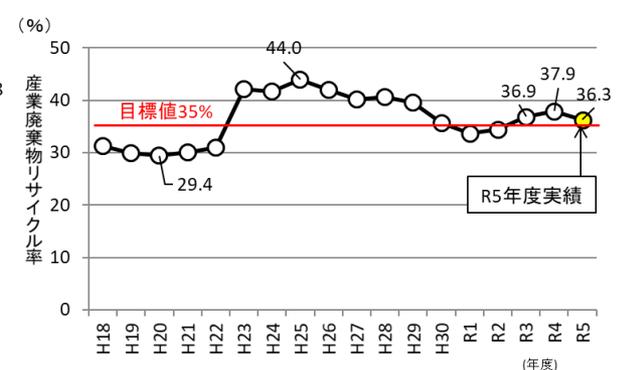
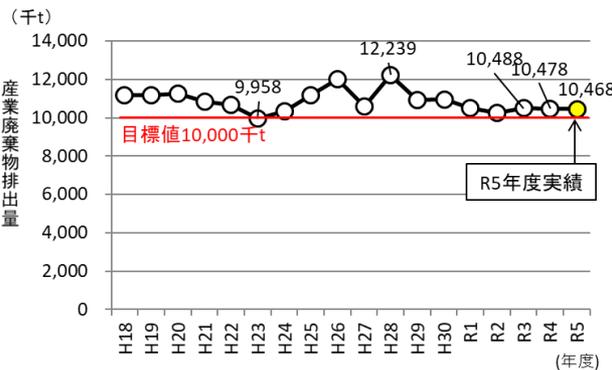
### 評価と方向性について

- 令和5年度の県民1人1日当たり一般廃棄物排出量は923gで前年度から5.0%改善、リサイクル率は22.6%で0.2ポイント後退、最終処分率は11.3%で0.6ポイント改善した。
- 一般廃棄物排出量及び最終処分率の改善は、新型コロナの5類移行に伴い社会生活が家庭での巣ごもりから通常状態に戻ったことに加え、物価高騰等の影響により消費活動が抑えられたことなどが考えられる。
- 一般廃棄物リサイクル率の後退は、古紙やガラス類等が減少傾向にあるほか、市町村等で把握することが困難な民間の大型店舗での店頭回収等が増加していることが考えられる。
- 「宮城県循環型社会形成推進計画（第3期）」及び「宮城県食品ロス削減推進計画」に基づき、プラスチックごみ対策や食品ロス削減などの課題に対応しながら、引き続き市町村等と連携した普及啓発などにより一層の3Rの取組の推進を図っていく。

管理指標6	
産業廃棄物排出量（千t）	
指標の概要	
県内の産業廃棄物排出量	
実績	
最新実績	令和5年度 10,468千t 【目標値（令和12年度）10,000千t】
前年実績	令和4年度 10,478千t
達成状況	○ 目標未達成だが改善 前年度比-0.1%

管理指標7	
産業廃棄物リサイクル率（%）	
指標の概要	
県内の産業廃棄物リサイクル率	
実績	
最新実績	令和5年度 36.3% 【目標値（令和12年度）35%】
前年実績	令和4年度 37.9%
達成状況	◎ 目標達成 前年度比-1.6ポイント

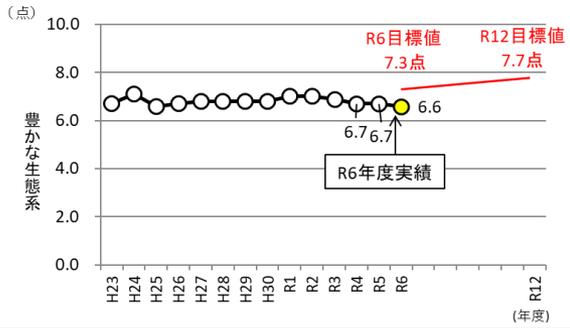
管理指標8	
産業廃棄物最終処分率（%）	
指標の概要	
県内の産業廃棄物最終処分率	
実績	
最新実績	令和5年度 1.3% 【目標値（令和12年度）1.0%】
前年実績	令和4年度 1.6%
達成状況	○ 目標未達成だが改善 前年度比-0.3ポイント



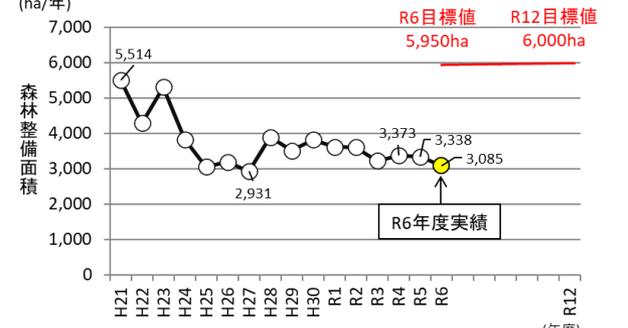
### 評価と方向性について

- 令和5年度の産業廃棄物排出量は10,468千tで前年度から0.1%改善、リサイクル率は36.3%で1.6ポイント後退したが、目標値を上回っている。また、最終処分率は1.3%で0.3ポイント改善し、目標達成に向けて概ね順調に推移している。
- 排出量については、東日本大震災の復旧・復興事業等により増加した後、平成28年度をピークに減少に転じ、近年は横ばい傾向にある。
- リサイクル率については、比較的反リサイクル率の高い「がれき類」の排出量が減少したことなどにより、前年度と比較して後退した。
- 現状、「廃プラスチック類」や「ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず」の最終処分量が多いことから、その発生抑制及び再資源化の取組を促進する必要がある。
- 令和3年3月に策定した「宮城県循環型社会形成推進計画（第3期）」に基づき、県内事業者による3R設備導入に対する助成や環境産業コーディネーター派遣によるマッチング支援等により、産業廃棄物の3R推進を図っていく。

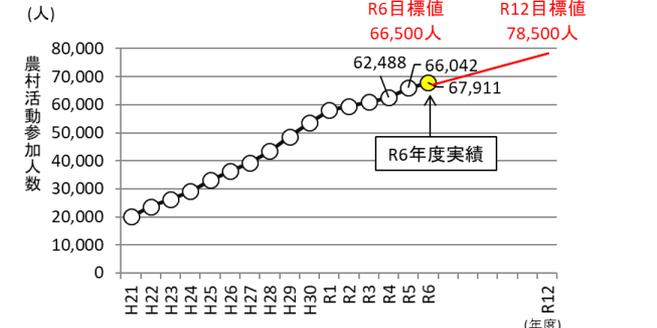
管理指標9	
豊かな生態系（森林・農地・水辺環境の保全）	
指標の概要	
県内の動植物の自然性について、「植物環境指標」と「河川生物生息環境指標」を基に、10点満点で評価した指標	
実績	
最新実績	令和6年度 6.6点 【目標値（令和6年度）7.3点】
前年実績	令和5年度6.7点
達成状況	△ 目標未達成かつ後退 前年度比-0.1ポイント



管理指標10	
森林整備面積（ha/年）	
指標の概要	
県内の私有林における年間森林整備面積（「間伐面積」と「植栽面積」の合計）	
実績	
最新実績	令和6年度 3,085 ha/年 【目標値(令和6年度) 5,950ha/年】
前年実績	令和5年度 3,338 ha/年
達成状況	△ 目標未達成かつ後退 前年度比-7.6%



管理指標11	
農村環境保全等の協働活動に参加した人数	
指標の概要	
里地里山の自然環境保全や、自然とのふれあいの場としての活用を目指して実施された、地域や学校と連携した農村環境保全等の協働活動に参加した人数（累計）	
実績	
最新実績	令和6年度 67,911人 【目標値(令和6年度) 66,500人】
前年実績	令和5年度 66,042人
達成状況	◎ 目標達成 前年度比+2.8%



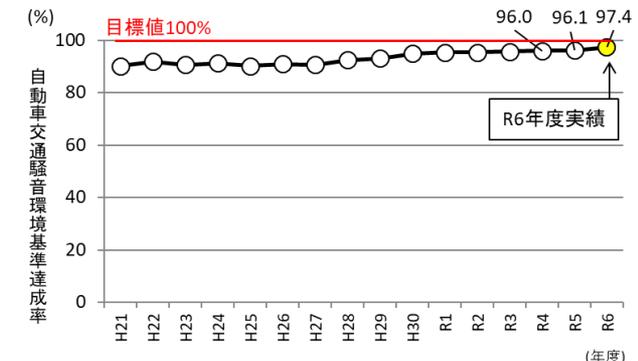
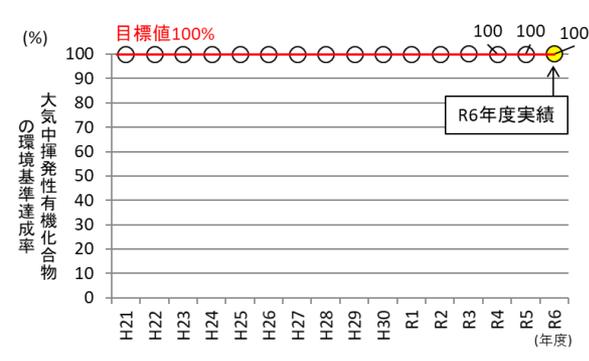
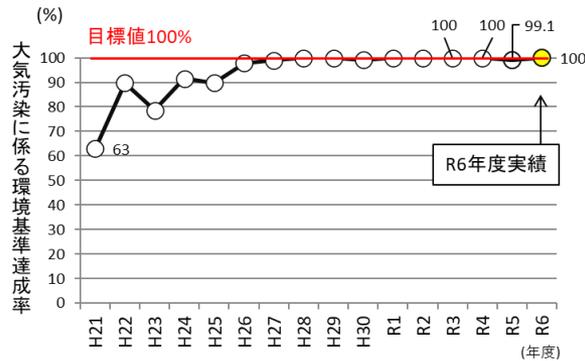
評価と方向性について

- 「豊かな生態系」の令和6年度実績は6.6点で、目標値に近いところで横ばいで推移している。
- 「森林整備面積」の令和6年度実績は3,085ha/年で、前年度から7.6%の減となった。内訳をみると、植栽は30ha減（10%減）、間伐は223ha減（7.3%減）となっている。造林経費が負担となり伐採後の再造林率が低迷していることに加え、森林の高齢級化が進んでいることで間伐を必要とする若齢林自体が減少しているが、今後も森林の持つ多面的機能を維持するため、一貫作業、低密度植栽、下刈り回数の削減など省力化に取り組んで再造林を推進するとともに、施業の集約化等による低コスト間伐の推進に取り組んでいく。
- 「農村環境保全等の協働活動に参加した人数」については、生き物調査等をはじめとした各種環境学習イベントを各管内事務所と地元組織が連携しながら実施したことで参加人数が増加し、目標値を達成した。今後も参加人数の増に向け、引き続き地域イベントを継続するほかSNS等を用いて情報発信することで協働活動の取組を支援していく。
- 自然公園や県自然環境保全地域等を設定することで県土の重要な自然環境の保全に努める。また、野生鳥獣の安定した生息環境の確保及び野生鳥獣の適正管理を進める。さらに、世界的に取組が進められている生物多様性の損失を止め、回復軌道にのせる「ネイチャーポジティブ」を本県でも推進するため、個別計画を改訂し、令和7年度から関係施策との連携や企業・県民への普及啓発を強化する。

管理指標12	
大気汚染に係る環境基準達成率 (%)	
指標の概要	
県内の一般環境大気測定局及び自動車排出ガス測定局における大気汚染に係る環境基準達成状況（二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、微小粒子状物質）	
実績	
最新実績	令和6年度 100% 【目標値（令和12年度）100%】
前年実績	令和5年度 99.1%
達成状況	◎ 目標達成 前年度比+0.9ポイント

管理指標13	
大気中揮発性有機化合物の環境基準達成率 (%)	
指標の概要	
光化学オキシダントの発生原因の一部である揮発性有機化合物（ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン）の県内における環境基準達成状況	
実績	
最新実績	令和6年度 100% 【目標値（令和12年度）100%】
前年実績	令和5年度 100%
達成状況	◎ 目標達成 前年度比±0ポイント

管理指標14	
道路に面する地域における自動車交通騒音の環境基準達成率 (%)	
指標の概要	
道路に面する地域における自動車交通騒音の環境基準の達成状況	
実績	
最新実績	令和6年度 97.4% 【目標値（令和12年度）100%】
前年実績	令和5年度 96.1%
達成状況	○ 目標未達成だが改善 前年度比+1.3ポイント



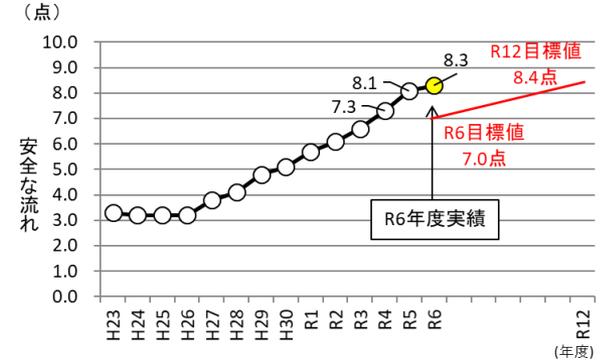
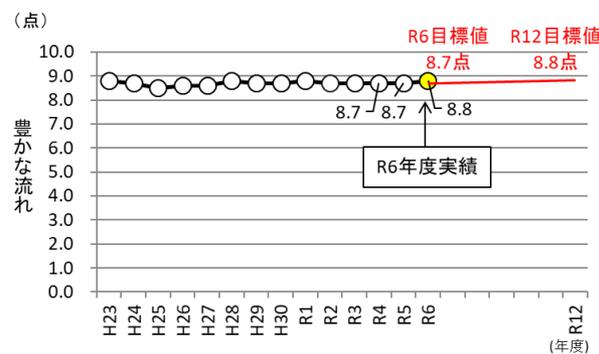
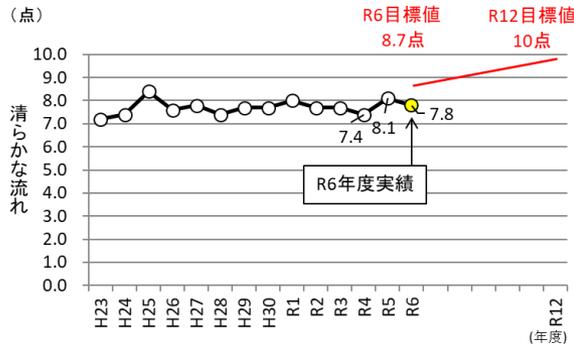
### 評価と方向性について

- 令和6年度の「大気汚染に係る環境基準達成率」は、黄砂の影響を除き目標値（100%）を達成し、前年度から0.9ポイント改善した。「大気中揮発性有機化合物の環境基準達成率」は、前年度同様100%を達成した。
- 「道路に面する地域の自動車交通騒音の環境基準達成率」は97.4%で、前年度から1.3ポイント改善した。
- 自動車交通環境負荷低減に向け、これまでの取り組みの成果を踏まえつつ、新たな社会情勢に対応した効果的な施策の推進について、引き続き県民・事業者と一体となって取り組んでいく。

管理指標15	
清らかな流れ（水質環境基準の達成度）	
指標の概要	
県内の公共用水域における水質（生物化学的酸素要求量、化学的酸素要求量、全窒素、全燐）の環境基準達成状況	
実績	
最新実績	令和6年度 7.8点 【目標値（令和6年度）8.7点】
前年実績	令和5年度 8.1点
達成状況	△ 目標未達成かつ後退 前年度比-0.3ポイント

管理指標16	
豊かな流れ（河川流量の豊かさ）	
指標の概要	
県内の河川流量の豊かさについて、「地下水涵養指標」と「河川正常流量達成度」を基に、10点満点で評価した指標	
実績	
最新実績	令和6年度 8.8点 【目標値（令和6年度）8.7点】
前年実績	令和5年度 8.7点
達成状況	◎ 目標達成 前年度比+0.1ポイント

管理指標17	
安全な流れ（河川・海岸整備率の向上）	
指標の概要	
県内における洪水や高潮・津波等に対する堤防等の整備について、「河川整備指標」と「海岸整備指標」を基に、10点満点で評価した指標	
実績	
最新実績	令和6年度 8.3点 【目標値（令和6年度）7.0点】
前年実績	令和5年度 8.1点
達成状況	◎ 目標達成 前年度比 +0.2ポイント



### 評価と方向性について

- 「清らかな流れ」としての水質環境基準の達成度は7.8点で、近年は目標未達成であるが、概ね横ばいとなっている。
- 「豊かな流れ」としての平常時の河川流量の豊かさは8.8点で、近年は目標を達成している。
- 「安全な流れ」としての河川・海岸整備率の向上については8.3点で、目標を達成した。東日本大震災に伴う海岸整備率の向上により順調に推移している。
- 計画の実効性を高めるため、身近な地域環境に対する県民の関心を喚起し、NPO法人等を核とする地域連携活動の仕組みづくりを継続して支援する等、取組を進める必要がある。
- 令和3年3月に策定した「宮城県水循環保全基本計画（第2期）」に基づき、流域における健全な水循環の保全に関する施策の効果的な推進を図るため、県内を大きく5つの流域に分け、流域毎の水循環計画を定めている。鳴瀬川流域の計画（第2期）を平成31年3月に策定、北上川流域及び名取川流域の計画（第2期）を令和3年3月に策定、南三陸海岸及び阿武隈川流域の水循環計画（第1期）を令和4年3月に策定し、これらの計画に基づき、健全な水循環の保全の取組を推進していく。

# 〔参考〕生態系・水質関連指標について

## 管理指標 9

### 豊かな生態系（森林・農地・水辺環境の保全）

#### 指標の概要

県内の動植物の自然性について、「植物環境指標」と「河川生物生息環境指標」を基に、10点満点で評価した指標

流域内の生態系のバランスについて、自然性を定量化した「植物環境指標」と代表河川の生息種多様性を示す「河川生物生息環境指標」から算出。すべての地域で自然豊かな森林を形成し、かつ、すべての河川延長において水生生物の生息環境が整っている場合10点となる。

## 管理指標15

### 清らかな流れ（水質環境基準の達成度）

#### 指標の概要

県内の公共用水域における水質（生物化学的酸素要求量、化学的酸素要求量、全窒素、全燐）の環境基準達成状況

水質環境基準点におけるBOD、COD、全窒素及び全リンに係る水質環境基準達成度を総合的に表す指標で、すべての測定地点で達成した場合に10点となる

## 管理指標16

### 豊かな流れ（河川流量の豊かさ）

#### 指標の概要

県内の河川流量の豊かさについて、「地下水涵養指標」と「河川正常流量達成度」を基に、10点満点で評価した指標

地下水涵養量（森林の流出係数との乖離で表現）と河川正常流量（流水の正常な機能を維持するために必要な流量）を基に表す指標で、全ての地域において森林程度の涵養量があり、河川において必要流量が年間を通して確保されている場合に10点となる。

## 管理指標17

### 安全な流れ（河川・海岸整備率の向上）

#### 指標の概要

県内における洪水や高潮・津波等に対する堤防等の整備について、「河川整備指標」と「海岸整備指標」を基に、10点満点で評価した指標

洪水や高潮・津波等による災害が起きにくいかどうかを評価するもの。河川及び海岸の整備状況を指標としており、整備済み延長を流域ごとに集計し、計画延長合計に対する比率を算出している。河川及び海岸整備が必要な全ての区間において達成された場合に10点となる。